

平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結） 平成 19 年 1 月 22 日



上場会社名 小林製薬株式会社

(コード番号：4967 東・大1部)

(URL <http://www.kobayashi.co.jp/>)

問合せ先 代表者 代表取締役社長 小林 豊

責任者 取締役 グループ統括本社本部長 山根 聡 TEL：(06) 6222-0084

1 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
(内容)

棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、当中間連結会計期間末にかかわる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しています。

- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

連結 (新規) 9 社 (除外) 1 社 持分法 (新規) 0 社 (除外) 0 社

2 平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19 年 3 月期第 3 四半期	202,442	5.3	16,031	12.5	14,076	6.4	8,470	22.1
18 年 3 月期第 3 四半期	192,315	16.6	14,251	8.4	13,225	9.1	6,939	10.8
(参考)18 年 3 月期	246,852		16,879		15,151		7,474	

	1 株当たり四半期 (当期) 純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期) 純利益	
	円	銭	円	銭
19 年 3 月期第 3 四半期	204	98	204	67
18 年 3 月期第 3 四半期	166	96	166	91
(参考)18 年 3 月期	179	17	179	01

(注) 売上高、営業利益などのパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期のわが国経済は、原油価格の動向が不安定なものの、企業収益の改善や雇用情勢の改善がみられ、景気回復が底堅いものとなりました。一方、個人消費においては回復基調にはあるものの、先行き不透明な状況で推移しております。

そうした状況の中で、当社グループは経営理念である「創造と革新」の精神をより一層発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供によりお客様の潜在ニーズを開拓すると同時に、既存の参入市場に対しても新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めました。

その結果、当第 3 四半期の売上高は 202,442 百万円 (前年同期比 5.3%増)、営業利益 16,031 百万円 (前年同期比 12.5%増)、経常利益 14,076 百万円 (前年同期比 6.4%増)、第 3 四半期純利益は 8,470 百万円 (前年同期比 22.1%増) となりました。第 3 四半期純利益が大きく増加したのは、減損損失を前第 3 四半期に 1,632 百万円計上したことによるものです。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、主要カテゴリーである芳香消臭剤が好調であることに加え、おなかの脂肪の分解・燃焼を促す内服薬「ナイシトール 85」、歯槽膿漏予防歯みがき「生葉」などが売上拡大に大きく貢献しました。この結果、売上高は 81,981 百万円と前年同期に比べ 6,832 百万円 (9.1%) の増収となりました。一方、売上伸長に加え、製造原価などのコスト削減を実施したことから、営業利益は 15,006 百万円と前年同期に比べ 1,564 百万円 (11.6%) の増益となりました。

家庭用品卸事業

当事業におきましては、天候不順による影響から主要顧客のドラッグストアにおける季節商材の売り上げ不振や健康食品市場の低迷など厳しい事業環境でしたが、昨年4月1日に(株)KS東北(旧株ソーワ)の株式を譲り受けたことなどから、売上高は127,906百万円と前年同期に比べ6,026百万円(4.9%)の増収となりました。しかし、展開エリア拡大を目指した株式譲り受けによる利益率の改善が遅れており、営業利益は165百万円と前年同期に比べ75百万円(△31.2%)の減益となりました。

医療関連事業

当事業におきましては、国内では自社製品の発売に加え、電気メスなどの手術室関連や市場の拡大が見込まれる整形外科の領域への販売に注力し、売上は順調に推移しました。一方、米国では顧客管理の新システム導入など間接部門の経費削減により利益率が向上しました。この結果、売上高は13,724百万円と前年同期に比べ1,222百万円(9.8%)の増収となり、営業利益は636百万円と前年同期に比べ347百万円(120.5%)の増益となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第3四半期	171,050	77,592	43.6	1,803.96
18年3月期第3四半期	161,353	65,533	40.6	1,587.87
(参考)18年3月期	151,945	66,811	44.0	1,617.10

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	6,768	△9,821	△4,398	16,989
18年3月期第3四半期	9,705	△4,940	△923	22,950
(参考)18年3月期	13,159	△6,414	△1,419	24,436

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して19,105百万円増加しました。増減の主なものは、子会社の新規連結化による影響から流動資産では受取手形及び売掛金が12,432百万円の増加、棚卸資産では3,135百万円増加しております。また、流動負債では支払手形及び買掛金が10,971百万円増加しております。

少数株主持分を含めた純資産は、前連結会計年度末と比較して7,863百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して0.4ポイント低下しました。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は6,768百万円となりました。

これは、税金等調整前第3四半期純利益が15,710百万円ありましたが、法人税等の支払い7,401百万円があったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は9,821百万円となりました。

これは、新製品開発のための有形固定資産の取得990百万円やM&Aによる株式の取得10,635百万円があったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は4,398百万円となりました。

これは、配当金の支払い1,569百万円や子会社による短期借入金の返済2,550百万円があったことなどによるものです。

3 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（注）金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期	260,000 百万円	15,000 百万円	8,200 百万円

（参考）1株当たり予想当期純利益（通期） 198円35銭

[業績予想に関する定性的情報等]

天候不順の影響により事業環境が厳しいことに加え、新規投資先の進捗が計画を下回っているため、平成18年5月15日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

※上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の業績とは予想数値が異なる場合があります。